

## 笹森 洋樹(教育支援研究部総括主任研究官)

4月より横浜市教育委員会から教育支援研究部にお世話になります。笹森洋樹です。小・中学校等教育支援:LD・ADHD等担当です。

生まれも育ちも横浜です。情緒障害通級指導教室に20年近く勤めた後、横浜市教育委員会で4年間、施策・事業と学校支援、教育相談等の仕事をしてきました。特別支援教育の推進の担当でもあり、モデル校を指定する等ようやく種をまき始めたところで転勤となりました。

LD、ADHD等のいわゆる軽度発達障害の抱える課題は、本人の障害特性だけでなく、まわりの環境や関わりによるところがとても大きいと思います。障害特性に応じた教育の在り方とともに集団で個々を活かす教育の在り方、学校だけに任せず教員及び学校を地域がサポートするシステムづくりを検討する等、学校教育全般の変革が特別支援教育の推進には大切と考えています。

自分にとっても研究所での生活はまわりの環境や関わりによるところが大変大きいと思います。慣れるまで色々とお迷惑をおかけすると思いますが、ご指導、ご鞭撻をよろしくお願いいたします。



## 内田 俊行(教育支援研究部研究員)

4月より教育支援研究部(盲・聾・養護学校教育支援担当)に配属されました内田俊行です。

広島県において知的障害養護学校(中学部)の教員をし、平成15年度より2年間、文部科学省(教育課程課、特別支援教育課)において地方教育行政実務研修生として行政に携わりました。教員から行政の仕事へ変わる際にはとても戸惑いましたが、義務教育制度の見直しや特別支援教育の全国的な推進状況を間近で感じる事ができ大変有意義でした。また、一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導・支援をしていくことと同時に、地域・学校として組織的・包括的に子どもを育成していくという双方向を意識しながら仕事を進めるバランス感覚が教育職・行政職を問わず重要であることを実感することもできました。

これからは研究所の職員として、これまでの経験を生かしながら、子どもたちや先生方を通じて多くの実践・研究に学び、子どもたちの学習や成長、先生方の実践を少しでも支えていくことができるよう誠心誠意職務に精進する所存です。皆様方のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



## 小澤 至賢(教育相談センター主任研究官)

4月1日付けをもちまして、独立行政法人国立特殊教育総合研究所教育相談センターで仕事をさせていただくことになりました小澤至賢です。昨年度は記録的な大雪にみまわれた青森県からやってまいりました。

平成8年から4年間、久里浜養護学校で仕事をさせていただき、こちらに赴任するのは2度目となりますが、まだ雪の残る青森を発ち、こちらに着いた時にはさくらを咲かせた木々を見て、気候の違いをあらためて実感しています。

久しぶりに野比の海岸を眺めておると、これまでかわらせていただいた子どもたちや保護者の方々の顔や、その思いが心に浮かんできます。これからの仕事を通して、子どもたちや保護者の方々そして地域社会の方々への恩返しがいけたらと考えているところです。

特別支援教育への大きな転換点である今、微力ながら何らかの寄与ができたらと考えております。まだまだ未熟ですが、ご指導ご鞭撻を賜り、職務の遂行に励みたいと考えております。何卒よろしくお願いいたします。



## 講演会「知っておきたい障害者福祉の現状とこれから—発達障害者支援法等に見る国の施策の動向—」の開催

平成17年2月21日(月)、当研究所に新保幸男先生(神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部助教授)

をお招きして、「知っておきたい障害者福祉の現状とこれから—発達障害者支援法等に見る国の施策の動向—」と題して講演会を開催しました。発達障害支援法を教育で生かすために、語句一つ一つの意味(例えば、福祉における自立)を詳細に説明しながら、福祉の専門家からみた発達障害者支援法の意義と法律全体の概説をして頂きました。研究所の研究員の他、横須賀市教育委員会からも参加を頂き、地域における障害のある子どもの支援体制構築の一助になったと考えています。また、この講演会は、教育支援研究部医療・福祉連携担当と本研究所の共同研究「地域における障害のある子どもの総合的な教育的支援体制の構築に関する実際研究」の共催で行ったものです。



## 総務省職員が研修のため来所



平成17年1月20日(木)に、総務省本省へ任期付きで同省地方事務局より併任している職員26名が研修の一環として、来所されました。

研修は、細村理事長の挨拶ではじまり、矢田総務課長より研究所の概要、大内企画部総括主任研究官よりプロジェクト研究等の概要の説明のあと、スヌーズレン、聴力検査室、視機能検査室、光トポグラフィ装置(教育相談センター関連施設・装置)や図書室、iライブラリーを研究所職員の説明を受けながら視察されました。

「スヌーズレン」はオランダ語のスヌッフレン(鼻をひくひくさせる)とドゥーズレン(うとうとする)を合わせた造語です。オランダに始まり、ドイツ、イギリスの障害のある子どもの学校や施設、高齢者施設などで用いられている環境設定です。障害のある人々は、特別にしつらえられた部屋で、音楽、ウォーターベッド、水中に作り出される泡沫、照明などの装置から提供される光、音、香、触覚、揺れなど種々の感覚体験を通じて心身のリラクゼーションを図ります。